

各 位

会 社 名 株式会社ヤマノホールディングス
 代 表 者 名 代表取締役社長 山野 義友
 (J A S D A Q コード番号 7571)
 問 合 せ 先 取締役専務執行役員
 管理本部長 岡田 充弘
 電 話 番 号 0 3 - 3 3 7 6 - 7 8 7 8

2021年3月期業績予想と実績値の差異に関するお知らせ

当社は、2021年2月14日に公表しました2021年3月期の連結業績予想と実績値との間に差異が生じたので下記のとおりお知らせいたします。

また当社は個別業績予想を開示しておりませんが、当社の個別決算における当事業年度の実績値が前事業年度の実績値から一定以上変動しましたのであわせてお知らせいたします。

記

1. 通期連結業績予想との差異について

(1) 2021年3月期連結業績予想と実績値との差異(2020年4月1日～2021年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	12,550	195	180	△320	△9.54
実 績(B)	12,701	331	325	△324	△9.68
増減額(B-A)	151	136	145	△4	—
増減率(%)	1.2	70.2	80.7	—	—
(ご参考)前期実績 (2020年3月期)	14,064	51	67	3	0.10

(2) 差異の理由

当連結会計年度の業績については、本日公表の「2021年3月期決算短信〔日本基準〕(連結)」に記載のとおり、新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言の再発出による影響はあったものの、全セグメントにおいて売上高は概ね回復傾向となり、前回発表予想数値を若干上回りました。

利益面では、増収による増益及び販促施策の見直し等によるコスト削減のほか、店舗休業・時短営業期間の人件費や賃料等の固定費を特別損失へ振り替えたこと等により、営業利益、経常利益は前回発表予想数値を大きく上回りました。

親会社株主に帰属する当期純損失につきましては、営業利益・経常利益の増益はありましたが、本日公表の「特別利益及び特別損失の計上に関するお知らせ」に記載のとおり、新型コロナウイルス感染症の収束時期が不透明であることを踏まえ、当社グループが保有する固定資産の将来の回収可能性を慎重に見積った結果、店舗等に係る固定資産の減損損失139百万円及びのれん減損損失138百万円を計上したこと等により、ほぼ前回発表予想数値通りとなりました。

2. 個別業績の前期実績値との差異について

(1) 2021年3月期通期個別業績の前期実績値との差異(2020年4月1日～2021年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前期(2020年3月期) 実績(A)	百万円 9,644	百万円 82	百万円 85	百万円 △28	円 銭 △0.84
当期(2021年3月期) 実績(B)	8,005	272	241	△396	△11.81
増減額(B-A)	△1,639	190	155	△367	—
増減率(%)	△17.0	230.4	182.8	—	—

(2) 差異の理由

売上高は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う影響により、前年を大幅に下回る結果となりましたが、販促施策の見直しや一般管理費の削減に努め、また休業・時短営業期間の人件費や賃料等固定費を特別損失へ振り替えたこと等により、営業利益、経常利益は前期実績を上回りました。

当期純損失につきましては、新型コロナウイルス感染症の収束時期が不透明であることを踏まえ、本日公表の「特別利益及び特別損失の計上に関するお知らせ」に記載のとおり、当社が保有する固定資産の将来の回収可能性を検討した結果、店舗等に係る固定資産の減損損失を計上したほか、子会社の業績及び純資産状況に鑑み、関係会社株式評価損173百万円及び関係会社貸倒引当金繰入額89百万円を計上したこと等により、前期実績を大きく下回ることとなりました。

以 上